

登録販売者試験 問題集

令和 8 年版

関西広域連合・福井編

(滋賀・京都・大阪・兵庫・和歌山・奈良・徳島・福井)

◆厚生労働省「試験問題の作成に関する手引き（令和7年4月）」対応

目次

☑ 1. 令和7年度（2025年度）	問題	5
	正解&解説	48
☑ 2. 令和6年度（2024年度）	問題	59
	正解&解説	101
☑ 3. 令和5年度（2023年度）	問題	111
	正解&解説	153
☑ 4. 令和4年度（2022年度）	問題	163
	正解&解説	209
☑ 5. 令和3年度（2021年度）	問題	219
	正解&解説	261

公論出版

令和7年度（2025年） 午前

〔医薬品に共通する特性と基本的な知識〕

問1 医薬品の本質に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a. 一般用医薬品は、一般の生活者が自ら選択し、使用するものであり、添付文書や製品表示に記載された内容を見れば、効能効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることはない。
- b. 一般用医薬品の販売に従事する専門家は、随時新たに付加される医薬品の有効性、安全性等に関する情報の把握に努める必要がある。
- c. 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されなければならない。
- d. 一般用医薬品として販売される製品は、製造物責任法（PL法）の対象ではない。

1. (a、b) 2. (a、c) 3. (b、c) 4. (b、d) 5. (c、d)

問2 医薬品のリスク評価に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組合せを選べ。

新規に開発される医薬品のリスク評価は、医薬品開発の国際的な標準化（ハーモナイゼーション）制定の流れのなかで、個々の医薬品の用量-反応関係に基づいて、医薬品の安全性に関する非臨床試験の基準である（a）が制定されている。また、ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準には、国際的に（b）が制定されている。さらに、製造販売後の調査及び試験の実施の基準として（c）が制定されている。

a	b	c
1. GLP (Good Laboratory Practice)	GCP (Good Clinical Practice)	GPSP (Good Post-marketing Study Practice)
2. GLP	GCP	GVP (Good Vigilance Practice)
3. GCP	GLP	GVP
4. GVP	GLP	GPSP
5. GVP	GCP	GPSP

問20 HIV訴訟に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a. 血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）が混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- b. 国及び製薬企業を被告として、大阪地裁、東京地裁で提訴され、現在も和解に向けた協議が進められている。
- c. HIV感染者に対する恒久対策として、国はエイズ治療・研究開発センター及び拠点病院の整備などの取り組みを推進している。
- d. 本訴訟を契機に、緊急に必要とされる医薬品を迅速に供給するための「緊急輸入」制度の創設等を内容とする改正薬事法が成立し、施行された。

	a	b	c	d
1.	誤	正	正	誤
2.	正	誤	正	正
3.	正	正	正	正
4.	正	誤	正	誤
5.	誤	正	誤	正

〔主な医薬品とその作用〕

問21 かぜ（感冒）及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a. 上気道の急性炎症であるかぜは、単一の疾患であり、予後は良好である。
- b. かぜによく似た症状の疾患は、喘息、肺結核、関節リウマチなど多数ある。
- c. インフルエンザ（流行性感冒）は、細菌の呼吸器感染によるものであり、感染力が強く、また重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。
- d. かぜは様々な症状が組み合わさって現れるため、かぜであれば、どのような場合でも総合感冒薬を選択すべきである。

	a	b	c	d
1. 正	正	誤	誤	
2. 正	誤	正	正	
3. 誤	正	誤	誤	
4. 正	誤	正	誤	
5. 誤	誤	正	正	

問22 かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a. 葛根湯は、体力虚弱で、神経過敏で気分がすぐれず胃腸の弱いもののかぜの初期、血の道症に適すとされる。
- b. 柴胡桂枝湯は、体力中等度又はやや虚弱で、多くは腹痛を伴い、ときに微熱・寒気・頭痛・吐きけなどのあるものの胃腸炎、かぜの中期から後期の症状に適すとされる。
- c. 小青竜湯は、体力中等度又はやや虚弱で、うすい水様の痰を伴う咳や鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘息、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適すとされる。
- d. 半夏厚朴湯は、体力中等度で、ときに脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振や口の苦味があり、舌に白苔がつくものの食欲不振、吐きけ、胃炎、胃痛、胃腸虚弱、疲労感、かぜの後期の諸症状に適すとされる。

1. (a、b) 2. (a、c) 3. (b、c) 4. (b、d) 5. (c、d)

〔人体の働きと医薬品〕

問61 消化管に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a. 胃の内壁にある胃腺からは、塩酸（胃酸）やペプシノーゲンなどが分泌される。
- b. 胃粘液に含まれる成分は、小腸におけるビタミンB12の吸収に重要な役割を果たしている。
- c. 小腸のうち十二指腸に続く部分の、概ね上部40%が回腸、残り約60%が空腸である。
- d. 大腸の粘膜は、絨毛じゅうもうで覆われてピロッド状になっている。

	a	b	c	d
1.	正	正	誤	誤
2.	正	正	誤	正
3.	正	誤	誤	誤
4.	誤	誤	正	正
5.	誤	誤	正	誤

問62 消化器系に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a. 膵臓すいぞうは、弱酸性の膵液すいじつを十二指腸へ分泌する。
- b. 胆嚢のうは、胆汁を産生して蓄える器官である。
- c. 摂取されたアルコールは、胃や小腸で吸収され、肝臓へと運ばれてアセトアルデヒドに代謝されたのち、さらに代謝されて酢酸となる。
- d. アミノ酸が分解された場合等に生成するアンモニアは、肝臓において尿素へと代謝される。

	a	b	c	d
1.	正	誤	正	誤
2.	正	誤	誤	正
3.	誤	正	正	正
4.	誤	正	誤	正
5.	誤	誤	正	正

問63 呼吸器系に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a. 呼吸器系は鼻腔くう、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺からなり、そのうち、鼻腔から咽頭・喉頭までの部分を上気道という。
- b. 鼻汁にはリゾチームが含まれ、気道の防御機構の一つとなっている。
- c. 喉頭の大部分と気管から気管支までの粘膜は、線毛上皮で覆われている。
- d. 肺の筋組織が拡張・収縮することで、呼吸運動が行われている。

	a	b	c	d
1.	正	正	誤	正
2.	誤	誤	正	誤
3.	正	正	正	誤
4.	正	誤	正	誤
5.	誤	正	誤	正

〔薬事に関する法規と制度〕

問81 登録販売者に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a. 登録販売者試験に合格した者であって、医薬品の販売又は授与に従事しようとするものは、都道府県知事の登録を受けなければならない。
- b. 登録販売者名簿の登録事項に変更を生じたときは、居住地の都道府県知事にその旨を届け出なければならない。
- c. 都道府県知事は、登録販売者が不正の手段により販売従事登録を受けたことが判明したときは、その登録を消除しなければならない。
- d. 登録販売者として店舗販売業に従事している者が、他の都道府県の店舗で従事する場合、新たに当該都道府県知事の販売従事登録を重複して受ける必要がある。

	a	b	c	d
1.	正	誤	正	誤
2.	正	誤	誤	正
3.	誤	誤	正	誤
4.	正	正	誤	誤
5.	誤	誤	誤	正

問82 医薬品の定義に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a. 日本薬局方に収載されている物は、全て法で規定される医薬品である。
- b. 日本薬局方に収載されている医薬品の中に、一般用医薬品として販売されているものはない。
- c. 法で規定される医薬品には、検査薬や殺虫剤、器具用消毒薬のように、人の身体に直接使用されないものも含まれる。
- d. 「やせ薬」を標榜^{ほう}したもの等、「無承認無許可医薬品」も法で規定されている医薬品に含まれる。

	a	b	c	d
1.	正	誤	正	正
2.	正	誤	正	誤
3.	誤	正	正	誤
4.	誤	誤	誤	正
5.	正	正	誤	正

問83 要指導医薬品に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a. 要指導医薬品で劇薬に該当するものはない。
- b. 検体の採取に身体への直接のリスクを伴う検査薬は、要指導医薬品としては認められていない。
- c. 医師等の診療によらなければ一般に治癒が期待できない心臓病に対する効能効果は、要指導医薬品において認められていない。
- d. 要指導医薬品は、法に定める期間を経過し、薬事審議会において一般用医薬品として取り扱うことが適切と認められたものについては、一般用医薬品に分類される。

	a	b	c	d
1.	正	誤	正	誤
2.	正	誤	正	正
3.	正	正	誤	誤
4.	誤	正	正	正
5.	誤	正	誤	正

〔医薬品の適正使用と安全対策〕

問101 医薬品の適正使用情報に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a. 要指導医薬品の添付文書等に記載されている適正使用情報は、一般の生活者には理解しにくい専門的な表現で記載されている。
- b. 一般用医薬品は、薬剤師又は登録販売者の判断に従い、一般の生活者が使用するものである。
- c. 一般用医薬品の添付文書は、開封時に一度目を通されれば十分というものではなく、必要なときにいつでも取り出して読むことができるように保管される必要がある。
- d. 一般用医薬品の中には、添付文書の形でなく、法第52条第2項の規定に基づく「用法、用量その他使用及び取扱い上の必要な注意」等の記載を外部の容器又は被包に行っている場合もある。

1. (a、b) 2. (a、c) 3. (b、c) 4. (b、d) 5. (c、d)

問102 一般用医薬品（一般用検査薬を除く。）の添付文書等に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a. 医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、2年に1回の定期的な改訂がなされている。
- b. 販売名に薬効名が含まれている場合には、薬効名の記載は省略されることがある。
- c. 病気の予防・症状の改善につながる事項（いわゆる「養生訓」）は、一般の生活者に分かりやすく示すため、必ず記載しなければならない。

	a	b	c	d
1.	誤	正	正	誤
2.	正	正	誤	正
3.	正	誤	正	誤
4.	誤	正	誤	正
5.	正	誤	正	正

- d. 医療用医薬品では、紙の添付文書の同梱を廃止し、注意事項等情報は電子的な方法により提供されることとなったが、一般用医薬品は、引き続き紙の添付文書が同梱されている。

令和7年度(2025年) 午前 正解&解説

〔医薬品に共通する特性と基本的な知識〕

問1 正解：3 (a. 誤：b. 正：c. 正：d. 誤)

a. 一般用医薬品は、一般の生活者においては、添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、**効能効果や副作用等について誤解や認識不足を生じる**こともある。

d. 一般用医薬品として販売される製品は、**製造物責任法(PL法)の対象**である。

問2 正解：1

新規に開発される医薬品のリスク評価は、医薬品開発の国際的な標準化(ハーモナイゼーション)制定の流れのなかで、個々の医薬品の用量-反応関係に基づいて、医薬品の安全性に関する非臨床試験の基準である(a: **GLP**)が制定されている。また、ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準には、国際的に(b: **GCP**)が制定されている。さらに、製造販売後の調査及び試験の実施の基準として(c: **GPSP**)が制定されている。

問3 正解：5 (a. 誤：b. 誤：c. 誤：d. 正)

a. 健康食品は、医薬品との相互作用で薬物治療の**妨げになることもある**。

b. 健康食品は、その多くが摂取しやすいように**錠剤やカプセル等の医薬品に類似した形状**で販売されている。

c. 機能性表示食品は、国に届出された商品であるが、**国の個別の許可を受けたものではない**。

問4 正解：3 (a. 正：b. 正：c. 正：d. 誤)

d. スイッチOTC医薬品以外に**腰痛や肩こり、風邪やアレルギーの諸症状に対応する一般用医薬品**が税制の対象となった。

問5 正解：5 (a. 正：b. 正：c. 正：d. 正)

問6 正解：2 (a. 誤：b. 誤：c. 正：d. 正)

a. 副作用は、眠気や口渇等の比較的**よく見られるもの**から、日常生活に支障を来す程度の**健康被害を生じる重大なものまで様々**である。

b. 一般用医薬品は、その使用を中断することによる不利益よりも、**重大な副作用を回避することが優先**される。

問7 正解：1 (a. 正：b. 正：c. 誤：d. 誤)

c. 一般用医薬品を使用して症状を一時的に緩和するだけの対処を漫然と続けているような場合には、いたずらに**副作用を招く危険性が増す**ばかりでなく、**適切な治療の機会を失う**ことにもつながりやすい。

d. 医薬品の販売等に従事する専門家においては、必要以上の大量購入や頻回購入などを試みる不審な者には慎重に対処する必要があり、**積極的に事情を尋ねる、状況によっては販売を差し控える**などの対応が図られることが望ましい。

問8 正解：1 (a. 誤：b. 正：c. 正：d. 誤)

a. 相互作用には、医薬品が吸収、分布、代謝(体内で化学的に変化すること)又は排泄^{せつ}される過程で起こるものと、**医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるもの**がある。

d. 一般用医薬品を併用しても問題ないかどうかについては、治療を行っている**医師若しくは歯科医師、又は処方された医薬品を調剤した薬剤師に確認**する必要がある。

問9 正解：4

アルコールは、主として肝臓で代謝されるため、酒類(アルコール)をよく摂取する者では、肝臓の代謝機能が高まっていることが多い。その結果、肝臓で代謝されるアセトアミノフェンなどでは、通常よりも(a: **代謝されやすく**)なり、薬効が(b: **十分に得られなくなる**)ことがある。また、代謝によって産生する物質(代謝産物)が人体に悪影響を及ぼす医薬品の場合には、副作用が(c: **現れやすく**)なる。

問10 正解：5 (a. 正：b. 正：c. 誤：d. 正)

c. 小児は大人と比べて**血液脳関門が未発達**であるため、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすく、中枢神経系に影響を与える医薬品で**副作用を起こしやすい**。

問11 正解：5 (a. 誤：b. 誤：c. 正：d. 正)

a. 高齢者は、生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が強く現れやすく、若年時と比べて副作用を生じる**リスクが高くなる**。

b. 高齢者は、持病(基礎疾患)を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が**悪化したり、治療の妨げとなる**場合がある。

問12 正解：5 (a. 正：b. 正：c. 正：d. 正)